

白土 美恵子 議員  
保有資産を活用し、新たな財源確保の積極的な取組みを  
— 今後も引き続き、自主財源の確保に努めていく —

(主な答弁者：企画財政部長)

**問** 地方自治体の厳しい財政状況が続き、歳出の削減だけでなく、保有資産を最大限に活用して歳入を増やす必要がある。財源確保のため、本市では現在どのような取組みをしているか。  
**答** 太陽光発電設備を設置するために小学校の屋根を貸出し

**問** 本年度に新しく取り組んでいる広告の掲載はあるか。  
**答** 市民日より15日号の裏表紙全面への掲載や、公共施設連絡バスのラッピングがある。これにより約560万円の財源確保が見込まれる。

**問** 新たな財源確保は、市民サービスの向上や地域経済の活性化にもつながるため、今後も積極的な取組みが必要であると考えますが、雑誌スポンサー制度を導入する考えはあるか。  
**答** 図書館での導入を目標に掲げており、年度内にスポンサー募集、来年度からの実施を目標に準備を進めている。今後も引き続き自主財源の確保に努める。



ラッピングされた公共施設連絡バス

松永 寿 議員  
災害時における視覚・聴覚障害者への支援を  
— 地域と連携した共助による支援体制づくりを進める —

(主な答弁者：危機管理局長)

**問** 災害情報はどのような方法で市民へ伝達されるのか。  
**答** キャッチやホームページ、防災ラジオ、同報無線の屋外拡声器、携帯電話へのメール配信及び広報車等により広報を行う。電話が使用できない場合は、各避難所、自主防災会長や消防団などに移動系の防災無線で行う。

**問** 視覚・聴覚障害者の避難所での受け入れ態勢は。  
**答** まずは最寄りの避難所へ避難してもらった後、一般の避難所での共同生活が困難な方には、福祉避難所へ移っていたり

**問** 新たな財源確保は、市民サービスの向上や地域経済の活性化にもつながるため、今後も積極的な取組みが必要であると考えますが、雑誌スポンサー制度を導入する考えはあるか。  
**答** 図書館での導入を目標に掲げており、年度内にスポンサー募集、来年度からの実施を目標に準備を進めている。今後も引き続き自主財源の確保に努める。

**問** 視覚・聴覚障害者の避難所での受け入れ態勢は。  
**答** まずは最寄りの避難所へ避難してもらった後、一般の避難所での共同生活が困難な方には、福祉避難所へ移っていたり



自主防災会による避難者受入訓練の様子

を行うことは非常に困難であると考えられるので、平常時から自主防災会や民生委員等と連携し、要援護者の状況の把握、情報の共有、避難支援計画の作成

上田 昌哉 議員  
住民会議で活躍するまちづくりコーディネーターの活用を  
— 地域課題の解決につながる幅広い活動を支援する —

(主な答弁者：市民活動部長)

**問** 地域が主体的に取り組む事業を支援する「元氣な地域応援交付金」はどのような制度か。  
**答** 地域が住民会議において取り組むことを決めた福祉、地域交流、商工観光、環境など9分野の事業に対し、1地区あたり50万円を上限に対象経費の10割を交付する制度である。

**問** 住民会議において重要な役割を担うまちづくりコーディネーターは、現在20人が登録されているとのことだが、どのような活動を行っているのか。  
**答** 様々な立場や考えを持つ

**問** 消防団員数が10年前と比較すると減少しているようだが、現状はどのようになっているのか。  
**答** 刈谷市消防団条例に定められている定数は435人だが、現在の団員数は375人である。平成16年4月1日の団員数と比較すると43人減少している。

**問** 他市の事例で、消防団員確保のために市内在住者に限らず、市内在勤の方も対象としているところがあるが、本市ではどのようなところがあるか。  
**答** 本市でも在勤者を対象と

**問** 夏季活動用のプリントTシャツを各団員3枚ずつ配付しているほか、福利厚生では団員1名につき年間2千円の宿泊施設やスポーツ施設などの利用補助を行っている。また10年以上在籍した団員とその家族1名をサンモリユー下條に無料招待している。

山崎 高晴 議員  
減少傾向にある消防団員数に歯止めをかけるために  
— 処遇改善を行うなど、団員確保に努める —

(主な答弁者：危機管理局長)

**問** 消防団員数が10年前と比較すると減少しているようだが、現状はどのようになっているのか。  
**答** 刈谷市消防団条例に定められている定数は435人だが、現在の団員数は375人である。平成16年4月1日の団員数と比較すると43人減少している。

**問** 他市の事例で、消防団員確保のために市内在住者に限らず、市内在勤の方も対象としているところがあるが、本市ではどのようなところがあるか。  
**答** 本市でも在勤者を対象と

**問** 夏季活動用のプリントTシャツを各団員3枚ずつ配付しているほか、福利厚生では団員1名につき年間2千円の宿泊施設やスポーツ施設などの利用補助を行っている。また10年以上在籍した団員とその家族1名をサンモリユー下條に無料招待している。

**問** 夏季活動用のプリントTシャツを各団員3枚ずつ配付しているほか、福利厚生では団員1名につき年間2千円の宿泊施設やスポーツ施設などの利用補助を行っている。また10年以上在籍した団員とその家族1名をサンモリユー下條に無料招待している。

**問** 夏季活動用のプリントTシャツを各団員3枚ずつ配付しているほか、福利厚生では団員1名につき年間2千円の宿泊施設やスポーツ施設などの利用補助を行っている。また10年以上在籍した団員とその家族1名をサンモリユー下條に無料招待している。

**問** 夏季活動用のプリントTシャツを各団員3枚ずつ配付しているほか、福利厚生では団員1名につき年間2千円の宿泊施設やスポーツ施設などの利用補助を行っている。また10年以上在籍した団員とその家族1名をサンモリユー下條に無料招待している。

**問** 夏季活動用のプリントTシャツを各団員3枚ずつ配付しているほか、福利厚生では団員1名につき年間2千円の宿泊施設やスポーツ施設などの利用補助を行っている。また10年以上在籍した団員とその家族1名をサンモリユー下條に無料招待している。

**問** 夏季活動用のプリントTシャツを各団員3枚ずつ配付しているほか、福利厚生では団員1名につき年間2千円の宿泊施設やスポーツ施設などの利用補助を行っている。また10年以上在籍した団員とその家族1名をサンモリユー下條に無料招待している。

あり、その理解者が必要であるとされている。小垣江には、県下唯一の青年学級があるがどのようなものか。  
**答** 生活に必要な職業または家事に関する知識及び技能を習得させ、並びに一般教養を向上させることを目的として、勤労青年15人以上が集まり、学習内容や学習期間を申請することで、市が青年学級を開設するものである。

**問** 青年学級の成果は。  
**答** 小垣江青年学級では、キャンプ実習、教養教室など様々なことを学んでいる。また、地域の子どもたちを集めて行うイベントを開催しており、参加した子どもが青年団に加入するなど、次の世代が育っている。

**問** 青年を支援する制度の創設について、どのように考えているか。  
**答** 小垣江青年団の活動を見本として、青年学級のPRを実施するほか、青年が社会と関わりながら、自立していくための活動を支援していく。

**問** 減少傾向にあります。それに伴って子供たち特に小学生の人口減少が著しい状況です。刈谷市の住宅地の価格が高く家が買えないという事情が一つの要因としてあります。子供はまちの活力の源です。ファミリー層の定住人口を減らさない施策が必要です。市民の皆様により住みよい住み続けたいと思っていたら刈谷市、市外の方には、住んでみたいと思える刈谷市とするため、市長に政策を提言するなど主体となって取り組んでまいります。

**問** 刈谷市は歳入では自動車産業の好調に支えられて財政が安定していますが、社会保障費、社会インフラ、老朽化した公共施設の維持費の増大など、今後も継続した歳入が見込まれます。刈谷市議会議員28名は刈谷市の全体を見ながら市長と切磋琢磨することで安定した住みよい刈谷市を目指します。

**問** 刈谷市の人口動態を調べると働き盛りの30歳から40歳の人口が



小垣江青年団活動の様子

(議会広報委員会)